

地方都市の中心市街地における 集合住宅の提案

図面・模型

加藤 祐衣

Kato Yui

造形建築科学コース

現在、地方においても郊外に暮らす高齢者の中心市街地への住み替えがみられる。家族形態の変化や地域社会のつながりの希薄化によって近隣に頼ることのできる人がいないこと、車なしでは生活を送ることが困難な生活環境であることなどから利便性の高い中心市街地への住み替えが起きている。

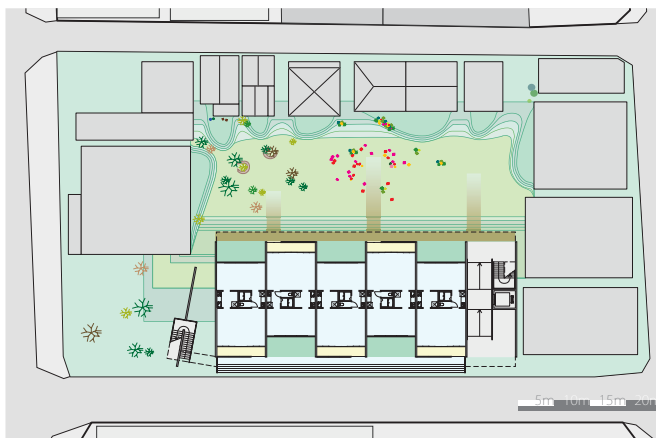
しかしながら中心市街地では集合住宅は多くの人を入居させることに重点が置かれ、高密度で閉鎖的な生活環境が当たり前のものとなっている。そのため従来の集合住宅では他者とのつながりが希薄でコミュニティが形成されにくく、住み替えをする孤立しがちな高齢者の欲求を満たすことができない。

そこでプライベートな空間とパブリックな空間の間に〈ニワ〉や〈ドマ〉といった中間領域を組み込み、住人の空間と共用部分を緩やかに分節する。

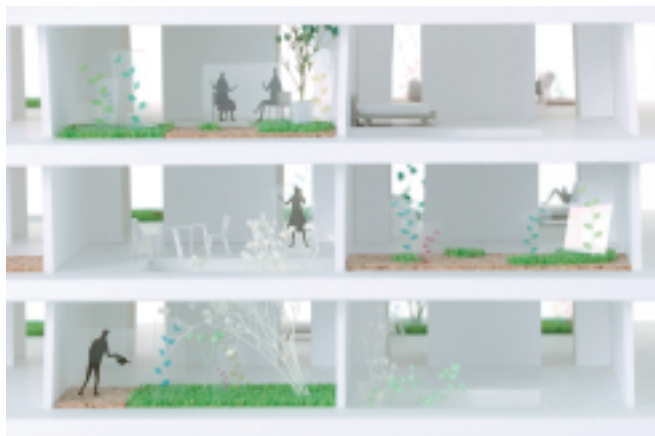
住人の生活が両者の性格を持つ中間領域へとにじみだし、その場を介して住人同士の交流を促す集合住宅とする。



模型写真



配置図 / 1階平面図



庭の使い方の例